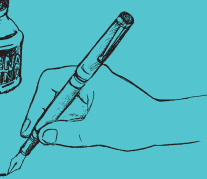


「丸善」創業150周年記念連続講演会

1869年に早矢仕有が創業した「丸善」は、おかげさまで、2019年1月に150周年を迎えました。これを記念し、このたび、丸善雄松堂は、これまで支えてくださった皆さまへの感謝の気持ちを込め、連続講演会を開催いたします。当講演会では、「人はなぜ、まなぶのか」をテーマとし、様々な分野の研究のトップランナー11名を講師にお招きして、人生100年時代を生きるまなびについてご講演いただきます。いつの時代も「知」に寄り添い、人の心と、その道程の先に知を^{とも}登すことをミッションとする当社がお届けする、「11のまなび」をご堪能ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



知を^{とも}登す
11のまなび



2019年 9/13 (金)

18:30~21:00

18:00 開場

定員 200名 参加無料

日比谷図書文化館 B1F 大ホール

正倉院宝物と 聖語蔵経巻の魅力

講師：飯田 剛彦氏

(宮内庁正倉院事務所保存課長、
奈良女子大学大学院客員教授)

TAKENAKA



1968年生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得退学。2000年に宮内庁正倉院事務所に入所し、2017年から現職。専門は日本古代史で、正倉院宝物・文書の調査に携わる。正倉院にある聖語蔵経巻の「称徳天皇勅願経」について、742巻すべてが「称徳天皇勅願経」とは言えないのではないかとみられていたところを、包括的な研究により、その全容を解明した。主な著書に『正倉院の地図(日本の美術521号)』(ぎょうせい)、共編著に『正倉院古文書影印集成』(八木書店)、共著に『正倉院美術館』(講談社)、『古代史講義』(ちくま新書)など。

天平写経と一切経 —その魅力に迫る—

講師：落合 俊典氏

(国際仏教学大学院大学 理事長、
日本古写経研究所所長)

TOSHINOBU



専門は教文献学、東アジア仏教、特に一切経の研究の研究。華頂短期大学教授、国際仏教学大学院大学教授を経て現職。2002年~2003年、日本仏教総合研究学会 評議員。2004年、日本印度学仏教学会「鈴木学術財団記念特別賞」受賞。2014年~現在、日本印度学仏教学会理事。中国および日本の仏教文献を書誌学的に調査するとともに厳密な文献学的方法を用いて解読することを主眼に置き、文献の成立を多方面から徹底的に考究し、国内外に眠る貴重な資料を数多く発見している。主な著書は、牧田諦亮監・落合俊典編『七寺古逸經典研究叢書』全六巻(大東出版社、1994年~2000年)。



9/13(金) 18:30~21:00 ※18:00 開場
日比谷図書文化館 B1F 大ホール 定員：200名 参加費：無料

〈講演内容〉【前半】
**正倉院宝物と
聖語蔵経巻の魅力**



飯田 剛彦氏
(宮内庁正倉院事務所保存課長、奈良女子大学大学院客員教授)

正倉院には、聖武天皇御遺愛品を中心に、約9,000点にのぼる宝物が1250年以上の時を超えて残され、天平の精華を今に伝えている。また、同構内には、隋・唐からの舶載経や光明皇后発願による五月一日経など、約5,000巻を数える聖語蔵経巻も保管されている。今回は、秋の展覧会の内容も踏まえつつ、正倉院宝物や経巻の魅力についてお話しすると共に、丸善雄松堂と正倉院事務所が進める、聖語蔵経巻のデジタル化プロジェクトをご紹介します。

〈講演内容〉【後半】
**天平写経と一切経
—その魅力に迫る—**



落合 俊典氏
(国際仏教学大学院大学理事長、日本古写経研究所所長)

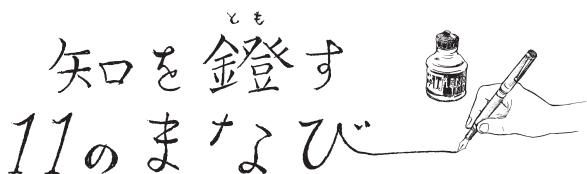
正倉院聖語蔵に秘蔵されている天平写経は、文化を愛好する人々の垂涎の宝物であると言っても過言ではない。筆者は堺市の郊外にある古刹を訪問した折、奇しくも光明皇后五月十一日経を手にすることができた。巻末の識語(奥書)が無かったことから平安後期から鎌倉時代の写経と想定されていたものである。もう一例挙げれば、個人蔵の奈良写経本が敦煌本と類似することから詳しく調べると梁の武帝の著とされていた戒律の本であった。本講座では天平写経の魅力「一切経」という視点から掘り下げていく。

申し込み
受付中



「丸善」創業 150 周年記念連続講演会

入場無料



特設サイトに最新情報を公開中!

講演会お申し込みもこちらから
<http://150th.maruzen.co.jp/manabi11/>
お申し込みの受付は先着順となります。



10/1(火) 12:00 申込受付開始予定



10/14 祝

14:00~15:30
丸善丸の内本店 3F
日経セミナールーム
定員：100名 参加費：無料

荒俣流愛書のススメ!
~古書の魅力と収集の愉しみ~



荒俣 宏氏
(作家・博物学者)

慶應義塾大学法学部卒業。コンピューター・プログラマーとして10年間のサラリーマン生活を送った後、独立作家、翻訳家、博物学研究、TVタレントとして多方面で活躍。その著書・訳書は300冊に及び、代表作に『帝都物語』(角川書店)、『世界大博物図鑑』(平凡社)などがある。古今東西の貴重な古書を収集所蔵する愛書家として有名。



11/22 金

18:30~20:30
日比谷図書文化館 大ホール
定員：200名
参加費：無料

身体多様性の時代



伊藤 亜紗氏
(東京工業大学リベラルアーツセンター准教授)

専門は美学、現代アート。もともと生物学者を目指していたが、大学3年次より「文転」。東京大学大学院人文社会科学系研究科美学芸術学専門分野博士課程修了(文学博士)。研究のかたわらアート作品の制作にもたずさわる。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社)、『どもる体』(医学書院)など。



12/25 水

18:30~20:30
日比谷図書文化館 大ホール
定員：200名
参加費：無料

**「学魔」高山宏が語る
漱石『夢十夜』を十一夜に(仮)**

高山 宏氏 (大妻女子大学名誉教授・副学長)



1/29 水

18:30~20:30 会場：未定
磯崎 憲一郎氏
(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院環境・社会理工学院社会・人間科学系教授、小説家(第141回芥川賞受賞))



日時・会場：未定
松岡 正剛氏 (予定)
(編集工学者、編集工学研究所所長、イシス編集学校校長)

これまでの
まなび



1 ヒトはなぜ文明を築けるのか?
ヒトの進化史とその未来 [4/25(木) 開催終了]
長谷川 眞理子氏 (総合研究大学院大学長)



2 国語教育と文学の現在(いま)
[5/17(金) 開催終了]
紅野 謙介氏 (日本大学文理学部教授・学部長)



3 強いAI、弱いAI [6/27(木) 開催終了]
鳥海 不二夫氏 (東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻准教授)



4 宇宙はいかに誕生したのか?
~物理学と天文観測によって描く創世記 [7/17(水) 開催終了]
佐藤 勝彦氏 (日本学術振興会 学術システム研究センター所長)



5 知の再武装の時代に向けて [8/8(木)]
寺島 実郎氏 ((財)日本総合研究所会長、多摩大学学長、一般社団法人寺島文庫 代表理事)

お問い合わせ

丸善雄松堂株式会社「150周年記念連続講演会」事務局
mail: manabi11@maruzen.co.jp